

登録有形文化財 おくのけじゅうたくおもや
奥野家住宅主屋

国登録	平成 24 年 8 月 13 日
所在地	本町二丁目
所有者	個人
時代	安政 2 年 (1855)



彦根の城下町は、慶長九年（一六〇四）から始まった彦根城の築城に伴い建設されました。

奥野家住宅の建つ旧上魚屋町一帯は、城下町建設の際に旧本町とともに最初に着手されたと伝えられる町のひとつで、肴屋（魚問屋）を集住させたことによりこの名がつけられたといわれています。また、天保七年（一八三六）頃には、上魚屋町のほかにも下魚屋町、中魚屋町がありました。

奥野家住宅は、碁盤の目状に造られた城下町の東西に延びる通りの北側に位置し、南側を通りに面して建てられた当地区最大の商家です。江戸時代には公事宿でありましたが、明治から昭和三十年ころにかけては醤油の製造販売業を営まれ、その後は医院を開業されてきました。

奥野家住宅主屋は、木造平入り形式の中二階建、三列十一室通りにわ型、東側には付属屋が附きます。

主屋の二階部分は建立当時の状態を残しており、東側のみ漆喰塗の袖壁を備えています。壁面には東側から虫籠窓が2ヶ所、出格子窓、平格子窓が2ヶ所設けられています。

奥野家住宅に関する史料は、現在のところ三葉残されていることが確認されています。ひとつは、安政二年（一八五五）の『普請見舞帳』であり、明治二十年（一八八七）に描かれた間取絵図、明治三十九年（一九〇六）に描かれた間取絵図が残されており、現在の間取りと比較しても当初の状態を残していることがわかります。

奥野家住宅は、安政二年（一八五五）に建立された旧上魚屋町を代表する商家であり、伝統的な構えが今日まで良好に継承された優れた建造物です。